

シンポジウムのご案内

グローバル化の時代において国際関係の枠組みは変化し、国家レベルに加え、国際レベルおよび非国家レベルの行動により国際関係が形成されていく傾向があり、NGOはその中で重要なプレーヤーの一つとなっています。

今回のシンポジウムでは、NGOの活動実態と存在意義について考え、国家との関係、国際関係におけるNGO、国際法との関係等についての研究報告ならびに討議を行います。

概要

日時：2009年11月27日（金） 13:30-18:00
 場所：新丸の内ビルディング9F コンファレンススクエア Room 901
 定員：120名（先着順）
 参加費：無料

主催：一般財団法人 キャノングローバル戦略研究所
 協賛：早稲田大学アジア研究機構

プログラム

開会挨拶 13:30-13:40	福井俊彦（キャノングローバル戦略研究所理事長）
研究報告 13:40-16:30	13:40-15:10 ①「NGO活動の実態と類型」 大橋正明 （国際協力NGOセンター（JANIC）理事長／恵泉女学園大学教授）
	②「民主政治とNGO」 高橋華生子（早稲田大学アジア太平洋研究センター助手）
	③「国際関係とNGO」 遠藤貢（東京大学教授）
	－休憩－
	15:30-16:30 ④「国際法とNGO」 長有紀枝（難民を助ける会理事長／立教大学大学院教授）
	⑤「NGOと外的環境」 金敬黙（中京大学准教授）
	－休憩－
ディスカッション ／質疑応答 16:45-18:00	ディスカッション：吉田文彦（朝日新聞論説委員） 美根慶樹（キャノングローバル戦略研究所特別研究員／ 早稲田大学アジア研究機構客員上級研究員・客員教授） 質疑応答：大橋正明（国際協力NGOセンター（JANIC）理事長／恵泉女学園大学教授） 高橋華生子（早稲田大学アジア太平洋研究センター助手） 遠藤貢（東京大学教授） 長有紀枝（難民を助ける会理事長／立教大学大学院教授） 金敬黙（中京大学准教授） コーディネーター：美根慶樹
懇親会 18:00-19:00	新丸の内ビル9階（ラウンジ）

「グローバル化とNGO」

大橋 正明

国際協力NGOセンター(JANIC)理事長／恵泉女学園大学教授

1980～87年「シャプラニール=市民による海外協力の会」バングラデシュ駐在員及び事務局長、90～93年、国際赤十字・赤新月社連盟兼日本赤十字社のバングラデシュ駐在員。93年より現職の恵泉女学園大学教授(国際開発学、南アジア地域研究)。日本NPOセンター副代表理事、シャプラニール理事、サマンバヤの会副代表、アーユス仏教国際協力ネットワーク理事などを務める。著書に「進化する国際協力NPO—アジア、市民、エンパワーメント」(共編著)(明石書店、2006年)等。

高橋 華生子

早稲田大学アジア太平洋研究センター助手

一橋大学大学院社会学研究科博士課程単位修得退学。著書に「フィリピンの脱集権化と都市開発行政の分断—地方分権と広域計画の両立に向けて—」(『ソシオロギス』、2008年9月)、「Assessing NGO Empowerment in Housing Development Frameworks: Discourse and Practice in the Philippines」(『International Journal of Japanese Sociology』、2009年11月)、訳書にサスキア・サッセン「グローバル・シティ」(筑摩書房、2008年)がなどある。

遠藤 貢

東京大学教授(大学院総合文化研究科)

東京大学教養学部教養学科第三国際関係論分科卒業(教養学士)、同大学大学院総合文化研究科修士課程国際関係論専攻修了(学術修士)後、1990年～93年に英ヨーク大学大学院博士課程留学(97年博士号取得)。93年東京大学助手、98年同助教授を経て、2007年4月から現職。研究分野は、現代アフリカ政治、比較政治、国際政治と非国家主体。主な業績は【共編著】国分良成・酒井啓子・遠藤貢編「地域から見た国際政治」(有斐閣、2009年)。「内と外の論理からみたアフリカ国家とその変容」(『アフリカ研究』71号、2007年)など。NGO関連の業績としては、「『市民社会』論—グローバルな適用の可能性と問題」(『国際問題』484号、2000年)、「NGOとグローバル市民社会」梶田孝道編(『新・国際社会学』、名古屋大学出版会、2005年)など。

長 有紀枝

立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授、認定NPO法人 難民を助ける会理事長

認定NPO法人 ジャパン・プラットフォーム共同代表理事

早稲田大学政治経済学部政治学科卒業、同大学院政治学研究科修士課程修了。東京大学大学院総合文化研究科「人間の安全保障」プログラム博士課程修了。博士(学術)。外資系企業勤務を経て、1991年より2003年まで難民を助ける会に勤務。緊急人道支援(ボスニア、チェチェン、アフガニスタンなど)、障害者支援(ミャンマー、カンボジアなど)、地雷対策(カンボジア、コソボ、アフガニスタンなど)、地雷禁止条約策定交渉などに携わる。2006年7月よりジャパン・プラットフォーム共同代表理事、2008年7月より難民を助ける会理事長。2009年4月より立教大学大学院教授。著書に「スレプレニツァーあるジェノサイドをめぐる考察」(東信堂、2009年)ほか。

金 敬黙

中京大学准教授

東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士(学術：東京大学、2006年)。

1999年～2002年に日本国際ボランティアセンター(JVC)で調査研究を担当。05～06年、中京大学教養部専任講師を経て現職。08年から日本国際ボランティアセンター理事をつとめる。単著に「越境するNGOネットワーク」(明石書店、2008年)、共編著に「国際協力NGOのフロンティア」(明石書店、2007年)、その他多数。

吉田 文彦

朝日新聞論説委員

外報部・科学部・経済部記者、ワシントン特派員、ブリュッセル支局長などをへて、2000年より現職。

1980年に東京大学文学部英米文学科卒。84～85年に米ジョージタウン大学MSFSフェロー。2007年に大阪大学より博士号(国際公共政策)取得。主な著書は、「核解体」(岩波新書、1995年)、「証言 核抑止の世紀」(朝日選書、2000年)、「『人間の安全保障』戦略」(岩波書店、2004年)、「核のアメリカートルーマンからオバマまで」(岩波書店、2009年)。編書は、「核を追う」(朝日新聞社、2005年)。

美根 慶樹

キヤノングローバル戦略研究所特別研究員／早稲田大学アジア研究機構客員上級研究員・客員教授

1968年、東京大学法学部を卒業し外務省入省。ハーバード大学にて修士号(地域研究)。72年、日中国交正常化交渉に参加。86年から在中国大使館参事官(政治部長)、94年、内閣審議官として戦後処理問題などを手掛ける。99年から2年間防衛庁で国際担当参事官、2001年、在ユーゴスラヴィア連邦共和国(現在はセルビアとモンテネグロに分かれている)特命全権大使、03年、地球環境問題担当大使、04年、在軍縮代表部特命全権大使、06年、アフガニスタン支援調整担当大使、07年、日朝国交正常化交渉日本政府代表を命じられ、同年9月にウランバートルで日朝交渉。09年4月、外務省を退官。5月から現職。